

<試験研究情報>

本年発生した病害虫の特徴 病害虫部…………… 2

<農業改良課情報>

農作物病害虫・雑草防除指導指針の活用を！……………6

<県植防情報>

新農薬等展示ほ調査成績中間検討会……………7

農薬の登録状況……………8

<連載>

「植物防疫基礎講座」 — 野菜のふしぎ — (第15話 ハクサイの不思議) ……10
永井 耕介

一田畑の草くさー 葦・芦・蘆・葭 (ヨシ・アシ)

イネ科ヨシ属の大型の多年草。全国の河川、池・沼・湖などの水際に背の高い群落を形成する。地下茎は時には5mを超え、草丈も猛暑の時などには5m以上にもなる。茎は丸くて中空、葉は長さ30cm~50cm、幅2~4cmの広線形。

日本在来で古(いにしえ)より水辺に群落を形成していた。その出芽時の突き上げるようなたくましさは古人(いにしえびと)の耳目を集めていたのだと思われる。古事記上巻の創世編冒頭、天地が混沌とした泥の中から「葦牙(あしかび)のごと萌えあがる物に因りて」産まれた二柱の天神(あまつかみ)、我々の国土はこの泥のような中から「葦(あし)」が一斉に芽吹いていくように萌えあがっていった、だから日本の古名を「豊葦原瑞穂(とよあしはらみずほ)の国」というようになった、とされている。

万葉人にも「葦(あし)」はしっかりと目に留まっていた。万葉集には「葦(あし)」を詠み込んだ歌が50首ほどあり、さらに小倉百人一首にも3首選ばれている。しかし、古事記やこれらの歌に歌われた「葦」はすべて「あし」で、「葦」が「よし」として出てくるのは1170年の「嘉応二年住吉社歌合」からのようである。

牧野富太郎は、アシは桿(はし)が変化したもので「悪し」に通ずるのを嫌ってヨシと呼んだもので、本来の名はただしくはアシだ、と言い、さらには、ヨシが生える水辺を「アシハラ」とは呼ばずに「ヨシハラ」と呼ぶのは面白い、とも言う。その「葭(よし)」が生える原に作られた江戸時代の遊郭が「葭原(よしはら)」であり、のちに縁起を担いで「吉原」となった。

葦の中を埒(ねぐら)とする鳥が「葦切(よしきり)」であり、葦の茎を編んで作った簀を「葦簀(よしず)」という。

一方、パスカルの「パンセ」の中の一文、前田らの訳では「人間はひとくきの葦(あし)にすぎない。(中略)だが、それは考える葦(あし)である」と、「あし」と読ませる。

「葦」を「アシ」と読むか「ヨシ」と読むかは場面によって異なるようである。
現在、植物の標準名は「ヨシ」である。(健)

本年発生した病害虫の特徴

～病害編～

病害担当

イネ

葉いもち

7月下旬の調査では発生ほ場率 15.7%(平年値 16.8%)と、全体的に平年並の発生となった。本年の梅雨期間は、後半に長雨が続き、箱施薬剤の薬効の低下時期とも重なり、平年並の発生となった

穂いもち

出穂期に当たる8月の気象は、高温少雨で推移し、穂いもちには抑制的であり、9月上旬の調査では発生ほ場率が 8.0%(平年値 8.5%)で、全体的にはやや少ない発生であった。

紋枯病

8月上旬の調査では発病株率 0%(平年値 14.0%)、発生ほ場率 6.1%(平年値 19.7%)とやや少ない発生であった。その後の高温により、9月上旬の調査では発生ほ場率 22.0%(平年値 28.4%)と平年並の発生となった。

縞葉枯病

8月下旬の調査では発生ほ場率は 23.1%(平年値 24.5%)と平年並の発生であった。県西部を中心とするヒメトビウンカのウイルス保毒虫率の高い地域では一部でやや多発したが、全体的に平年並の発生であった。

稲こうじ病

9月下旬の調査では発生ほ場率 5.2%(平年値 0.4%)であったが、発生は一部地域に限られ、全体的にはやや少ない発生であった。

ムギ

赤かび病

5月下旬の調査では発病穂率 0%(平年値 0.7%)で、少ない発生となった。シロガネコムギの出穂期は平年より 15 日早かった。その後の低温傾向により、開花期が遅くなったことから、適期防除の実施により少ない発生となったものと思われる。

ダイズ

立枯性病害

9月下旬の調査では発生ほ場率は 22.2%(平年値 28.7%)、平均発病株率は 0.7%(同 0.9%)と平年並の発生であった。

タマネギ

べと病

5月中旬の淡路地域での調査では発生ほ場率 8.3%(平年値 30.7%)、発病株率 0.02%(平年値 1.3%)と少なかった。また、周辺ほ場では発生ほ場率 0.56%(前年値 13.6%)、発病株率 0.02%(前年値 0.1%)とやや少なくなり、全体的にやや少ない発生となった。冬期間は暖冬傾向で定期的な降雨があったが、栽培期間を通じて防除情報を2回発出し、効果的な防除を実施したことから発生が抑制されたと考えられる。

白色疫病

本病は春期の降雨が発生を助長するが、本年の3月～4月にかけてはやや乾燥気味に推移したため発生は抑制的となり、5月上旬の調査では発生が認められなかった。

細菌性病害

5月上旬の調査では発生ほ場率 50.0% (平年値 52.3%)、発病株率 0.9% (平年値 0.7%)と平年並の発生で推移した。冬期間は暖冬傾向で定期的な降雨があった。4月は降雨日数が多く、強風を伴った雨が多かったことから、本病の感染が助長されたと推測され、注意報(R2. 3. 18付)を発表し、防除指導を行った。

その他

タマネギ栽培後期(5月～6月)にえそ条斑を伴った下葉の枯れ上がりが確認された。病害虫防除所において遺伝子検査を行ったところ、アイリス黄斑ウイルス(IYSV)によるタマネギえそ条斑病であることが判明した。県内ではタマネギの他にネギ、トルコギキョウ、テッポウユリで感染が確認され、特殊報(R2.7.14付)を発表し、本ウイルスの媒介虫であるネギアザミウマの防除指導を行った。

春キャベツ

菌核病

本病は春期の降雨が発生を助長するが、本年の3月～4月にかけてはやや乾燥気味に推移したため発生は抑制的となり、5月下旬の調査では一部の地域でわずかな発生が認められた。

春レタス

灰色かび病

4月上旬の調査では発病株率 0.2%であったが、発生ほ場率 33.3%(平年値 7.2%)と広い範囲で発病が認められた。

菌核病

4月上旬の調査では発生ほ場率 16.7%(平年値 15.9%)、発病株率 0.5%(同 0.3%)と平年並の発病が認められた。

本年の病害虫発生の特徴

～ 虫 害 編 ～

虫 害 担 当

イネ

ヒメトビウンカ

小麦における第1世代虫の発生量は平年並であった。水稻本田では広い地域で発生が確認されたが、9月上旬の払い落とし調査では成・幼虫10頭/10株(平年27.7頭)であり、発生量はやや少なかった。第1世代虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は、1.8%と昨年度(1.6%)と同等であった。

セジロウンカ

予察灯(60w白熱)への初飛来は6月中旬で例年より早かった。8月下旬では発生ほ場率50.9%と平年並であったが、9月以降も発生が続きやや多い発生となった。

トビイロウンカ

水田畦畔に設置した粘着トラップで6月下旬に成虫が捕獲され、今季における本種の初確認となった。また予察灯では7月中旬に初誘殺があり、その後の発生状況から6月下旬～7月中旬にかけて多数回の飛来があったと考えられた。8月中旬には、発生圃場率が77%と県内全域で発生が見られ、9月上旬には発生ほ場率100%、払い落とし調査で成・幼虫14頭/10株(平年0.6頭)と県全体で多い発生となった。“坪枯れ”の発生は9月下旬以降顕著になり、10月上旬における発生圃場率は約50%であった。8月27日に注意報を、9月16日に警報を発表した。

コブノメイガ

発生時期はやや早く、一部のほ場で6月下旬から被害葉の発生がみられた。発生量はその後増加し、9月上旬では25株あたりのつと数は13(平年2.2)となり、収穫期までやや多い発生で推移した。

斑点米カメムシ類

雑草管理が不十分な畦畔では早くから発生が見られており、予察灯では6月以降誘殺が続いた。8月1カ月間の合計誘殺数はアカスジカスミカメが458頭、アカヒゲホソミドリカスミカメが282頭と平年よりやや多くなった。水稻ほ場内での発生時期はやや遅かったが、発生量はやや多い状態で推移した。

ダイズ

ハスモンヨトウ

8月下旬における白変葉の発生は0.5カ所/a(平年0.1カ所)、圃場率は27.5%(同12.8%)とやや多く、9月上旬では、幼虫が28頭/25株(平年3.7頭)、白変葉が3カ所/a(同0.3カ所)と、平年より多い発生となった。その後も発生が多い状態で推移し、9月下旬には幼虫47頭/25株(平年1.0頭)、白変葉が4カ所/a(同0.6カ所)となった。7月21日に防除情報を、9月16日に注意報を発表した。

野菜共通

ハスモンヨトウ

フェロモントラップでは、6月上旬と7月上旬に長距離飛来によると考えられる成虫誘殺数の急増がみられた。梅雨明け後の高温少雨が発生を助長したと考えられ、誘殺数は9月以降再び急増し、9月1～2半旬の合計誘殺数は692頭(平年453頭)と多くなった。7月21日に防除情報を、9月16日に注意報を発表した。

シロイチモジヨトウ

フェロモントラップでは、6月上旬と7月上旬に長距離飛来によると考えられる成虫誘殺数の急増がみられた。梅雨明け後の高温少雨が発生を助長したと考えられ、誘殺数は8月以降再び急増し8月4半旬～9月3半旬の1カ月の合計誘殺数は1491頭(平年387頭)平年より多くなった。7月21日に防除情報を、9月16日に注意報を発表した。

ハイマダラノメイガ

誘致植物(クレオメ)での調査では、7月上旬から幼虫の寄生が確認され、7月の花枝寄生率は55.3%(平年5.1%)と多い発生であった。夏期の高温少雨が発生を助長したと考えられ、8月以降の花枝寄生率は80%前後の高い寄生率で推移した。8月7日に注意報を発表した。

ネギハモグリバエ (別系統)

従来のネギハモグリバエとは異なり、幼虫による白線状の食害痕が複数に分岐し、進展すると広く白化する症状になるため、系統が異なるとされている。他府県では既に発生が認められており、本県では露地ネギ圃場で発生が確認され、3月18日に特殊報を発表した。

ツマジロクサヨトウ

本種については、昨年フェロモントラップで成虫を確認し特殊報を発表(令和元年10月9日付け)したところであるが、本年6月に幼虫の発生を飼料用トウモロコシで確認した。

タバコノミハムシ

ナス科作物の葉を加害する外来種で、9月に露地ナスほ場において、10月にはトマト栽培施設で確認された。他府県で既に発生が報告されており、本県では11月4日に特殊報を発表した。

果樹共通

果樹カメムシ類

フェロモントラップでは、チャバネアオカメムシの誘殺が早い時期から見られ、4月1半旬～5月4半旬までの誘殺数が1024頭と平年(143.4頭)より著しく多かった。次世代虫にあたる8月2半旬～9月1半旬の誘殺数も、123.5頭と平年(36.9頭)より多かった。5月28日に注意報を、9月16日に防除情報を発表した。

兵庫県農業改良課からのお知らせ

「農作物病害虫・雑草防除指導指針」を活用ください！！

兵庫県では、病害虫と雑草をより効果的、経済的かつ安全に防除し、品質の良い農産物の生産に寄与するために、毎年、「農作物病害虫・雑草防除指導指針」（以下「指針」という。）を作成し、Web上で公開しています。

指針では、独立行政法人農林水産消費安全技術センターが公開する最新の農薬登録情報や県での試験結果などを参考に定めた推奨農薬等を検索、閲覧することができます。

以下に検索方法を紹介します。



携帯からもアクセス可能

【検索方法】

URL : <http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>

(1) 「病害虫・雑草防除指導指針」にアクセスします。

(2) 「農薬データの一覧」をクリックします。



(3) 「作物等の名称」を検索、一覧表から検索する作物名にチェックを入れます。

(4) 「病害虫雑草名」を検索、一覧表から検索する病害虫・雑草名にチェックを入れます。



(5) 「表示」をクリックします。

(6) 登録のある農薬の一覧が表示されます。



「◎」の表示がある農薬が県の推奨農薬です。

たまねぎ-ネ-アザミウマ
※農薬の登録に際して、必ず農薬のラベルに記載される登録情報を確認してください。
更新年月日:2016年07月

農薬の名称	登録	有効成分の名称	適用作物名	使用方法	病害虫雑草名	希釈倍数/使用量	使用時期	本剤使用回数	有効成分の登録使用回数	登録番号
1 「真鳥」ジエネ【十指針用】	◎	アゼフェート	たまねぎ	散布	ネギアザミウマ	1000~1500倍	収穫21日前まで	5回以内	5回以内	
2 クラウド【指針用】	◎	クロニカスト	たまねぎ	散布	ネギアザミウマ	2000倍	収穫7日前まで	2回以内	2回以内	
3 オルトラン水剤【指針用】	◎	アゼフェート	たまねぎ	散布	ネギアザミウマ	1000~1500倍	収穫21日前まで	5回以内	5回以内	
4 オルトラン水和剤【指針用】	◎	アゼフェート	たまねぎ	散布	ネギアザミウマ	300倍	収穫21日前まで	5回以内	5回以内	
5 オルトラン水和剤【指針用】	◎	アゼフェート	たまねぎ	無人航空機による散布	ネギアザミウマ	16倍	収穫21日前まで	5回以内	5回以内	
6 アズマイコルト水和剤【指針用】	◎	ピリフルキナゾリン	たまねぎ	散布	ネギアザミウマ	2000倍	収穫前日まで	3回以内	3回以内	
7 アズマイコルト水和剤【指針用】	◎	クロルピリフェース	たまねぎ	散布	ネギアザミウマ	1000~1500倍	収穫21日前まで	2回以内	2回以内	

新農薬展示ほ調査成績中間検討会を開催

令和2年11月13日（金）、神戸市の農業共済会館において県農業改良課、県立農林水産技術総合センター、農業改良普及センター及び賛助会員等に出席いただき「令和2年度新農薬等展示ほ調査成績中間検討会」を開催いたしました。

当日は、県下の農業改良普及センターで実施された除草剤、殺菌・殺虫剤の効果試験の結果について、各専門技術員の進行により検討が行われました。対象となった薬剤は28剤37試験で、防除効果、葉害、普及性や農家の意見、問題点など活発な議論が交わされました。

除草剤

水稲・畑作除草剤16剤26試験の成績を検討しました。成績検討の結果は、普及上問題のない総合判定「A」が15剤、1剤は「B」判定となりました。

また、除草剤2剤は次回以降の判定となります。

殺菌・殺虫剤

殺虫剤8剤10試験、殺菌剤2剤3試験、殺菌殺虫剤1剤2試験、過年度未了剤（殺菌剤）1剤1試験の成績を検討しました。殺虫剤は、総合判定「A」が7剤でした。1剤は3試験の内1剤が次回の判定なので、総合的な判定は次回に持ち越されました。殺菌剤は、総合判定「A」が3剤（含過年度分1剤）で、殺菌・殺虫混合剤は、総合判定「A」が1剤でした。

また、殺虫剤8剤（含持越剤）、殺菌剤4剤は次回以降の判定となります。

展示ほについてのご連絡

令和3年度新農薬等展示ほ設置申込みの受付を開始しました。賛助会員（農薬メーカー等）は設置を希望する薬剤の設置申込書を令和3年2月1日（月）までに兵庫県植物防疫協会へ提出してください。

本年度の最後の成績検討会は令和3年3月10日（水）に兵庫県農業共済会館で開催しますのでご了承ください。

同日開催の植物防疫推進表彰の表彰式にも是非ご参加ください。

農薬の登録状況（令和2年9月30日現在） ※表中の数値は全て農薬年度末日現在

新規化合物の開発に伴う農薬登録や登録適用拡大等の申請は毎日のように行われ、独立行政法人農林水産消費安全技術センター農薬検査部等において審査され農薬登録されます。このような中で、農薬の登録状況をリアルタイムで正確に把握することは非常に困難ですが、農薬検査部が毎年取りまとめて発表します「植物防疫地区協議会資料」を引用して、各農薬年度末（各年9月30日）の農薬登録状況を編集しました。

1 登録有効成分数

新規に登録されたもの、失効したものを加減し、登録有効成分数を集計しました。

令和2農薬年度中に8化合物の有効成分が農薬として新規に登録され、8化合物が失効しています。その結果、令和2年9月30日現在、596化合物が農薬の有効成分として登録されています。

	H25	H28	H29	H30	R1	R2
新規登録成分	種類 16	種類 12	種類 10	種類 10	種類 10	種類 8
新規失効成分	4	3	6	3	4	8
登録有効成分	555	579	583	590	596	596

2 農薬有効登録件数

令和2農薬年度中（令和元年10月1日～令和2年9月30日）に155件が新規に登録されました。失効したものを除くと、令和2年9月30日現在4,290件が農薬として登録されています。この件数は農薬の商品ごとに集計したもので、同じ種類名であっても、商品名が異なれば1件としてカウントされています。

	H25	H28	H29	H30	R1	R2
新規登録件数	種類 230	種類 112	種類 151	種類 160	種類 138	種類 155
有効登録件数	4,342	4,314	4,317	4,282	4,290	4,275

3 使用目的別有効登録件数の推移

使用目的別品目	H1	H20	H25	H28	H29	H30	R1	R2
	件	件	件	件	件	件	件	件
殺虫剤	2,709	1,219	1,097	1,092	1,066	1,073	1,064	1,050
殺菌剤	1,236	965	912	887	898	890	890	888
殺虫殺菌剤	1,099	510	507	492	475	469	451	406
除草剤	795	1,344	1,487	1,511	1,547	1,522	1,554	1,602
殺そ剤	85	33	29	23	23	23	23	21
植物成長調整剤	102	83	91	94	95	93	95	98
その他	248	187	219	215	213	212	213	210
合計	6,274	4,341	4,342	4,314	4,317	4,282	4,290	4,275

農薬登録数の推移を使用目的別に集計しました。合計では平成元年農薬年度に最多となり、その後は減少気味に推移しています。ただし、除草剤は増加傾向で推移しています。

4 農薬の毒性別登録件数の比率

登録されている農薬を殺虫剤、殺菌剤、除草剤、その他に分類し、それぞれの中で特定毒物、毒物、劇物、普通物別に登録件数の比率の推移を示しました。昭和30年代には全農薬の半分以上が殺虫剤でありましたが、昭和40年代に殺虫剤の登録件数は40%台に減少しました。その後も暫時減少し、平成15農薬年度では31.3%でしたが、平成25農薬年度からは20%中半で推移しています。殺菌剤は平成25年頃からほぼ横這いで推移しています。

除草剤は平成25農薬年度からはほぼ35%の微増傾向で推移しています。

品目	毒性区分	S45	H15	H25	H29	H30	R1	R2
		%	%	%	%	%	%	%
殺虫剤	特定毒物	0.2	0.2	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3
	毒物	3.3	0.4	0.2	0.1	0.1	0.1	0.0
	劇物	24.6	12.4	7.3	6.3	6.2	6.0	5.8
	普通物	16.9	18.3	17.6	18.1	18.5	18.4	18.5
	小計	45.0	31.3	25.3	24.8	25.1	24.8	24.6
殺菌剤	特定毒物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	毒物	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	劇物	3.7	1.5	1.2	1.2	1.2	1.2	1.3
	普通物	18.9	21.3	19.8	19.5	19.6	19.5	19.5
	小計	26.0	22.8	21.0	20.7	20.8	20.7	20.8
除草剤	特定毒物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	毒物	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0
	劇物	10.4	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2
	普通物	15.1	26.9	33.9	35.5	35.3	36.0	37.2
	小計	25.6	27.3	34.2	35.8	35.5	35.2	37.5
その他	特定毒物	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	毒物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	劇物	0.3	2.8	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7
	普通物	2.9	15.8	18.7	17.8	17.8	17.5	16.5
	小計	3.4	18.6	19.5	18.6	18.6	18.2	17.2
全体	特定毒物	0.4	0.2	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3
	毒物	6.8	0.5	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1
	劇物	39.0	17.1	9.8	8.5	8.4	8.2	7.9
	普通物	53.8	82.2	89.8	90.9	91.2	91.4	91.7
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

毒性別の推移でみると、昭和35農薬年度には特定毒物と毒物で49.5%とほぼ半数を占めていましたが、昭和46年1月の農薬取締法の改正による農薬の安全確保の強化に伴い著しく減少し、昭和45農薬年度には両者合わせて7.2%に減少しています。その後も減少し、最近では0.5%以下で推移しています。また平成15農薬年度以降は普通物が僅かながら増加の傾向にあり、その分劇物が減少しており、急性毒性の面からはさらに安全性が確保できていると言えるでしょう。



野菜のふしぎ



— 第15話 ハクサイの不思議 —

農学博士 永井耕介

「ハクサイ（白菜）」は「冬の鍋物」には無くてはならない野菜です。鍋物以外にも「餃子の具」「サラダ」「スープ」「炒め物」「浅漬け」「キムチ」など挙げればきりがなほど食卓をにぎわせています。「キャベツ」が西洋の葉もの野菜の横綱なら、東洋の横綱は「ハクサイ」なのです。ハクサイの英名は「Chinese Cabbage」で、その名のごとく中国が原産です。

次に「ハクサイの栄養面」を考えてみましょう。「水分」が約95%で、瑞々しく、多種多様な栄養素が微量ながらもまんべんなく含まれています。ハクサイは「水分」が少し多いですが、栄養面で優れたキャベツと比べても、βカロチンやカリウムなどのミネラル含量はむしろ「キャベツ」よりもたくさん含んでいます。それでも、100g当たりのハクサイのカロリーはなんと「キャベツの約6割」で、まさしくハクサイは「ダイエット食材」なのです。

ところで、良いハクサイの選び方をご存じでしょうか。そのポイントは①胴が張っていて、おしりが丸みを帯びているもの、②手で持つと重量感のあるもの、③巻きがしっかりしていて、葉先がしっかり巻き込んだもの、④外観が瑞々しく艶があり、株の切り口が白くて新鮮なものを選ぶことです。

ハクサイは他の野菜に比べて日持ちがよく、「新聞紙」に包んで「冷暗所」で「立て」保存すると「3～4週間の貯蔵」は十分可能です。ただし、これはハクサイを「丸ごと」貯蔵する場合のことです。

今日、食料品売り場では、3～4kgもある1個売りよりは少人数向けに「1/2」や「1/4」にカットされた形態での販売が増えてきています。ところが、カットされたハクサイはた

ちまち日持ち性が大きく低下します。「鮮度保持フィルムの役割」を果たしていた一番外の葉が無くなり、内部がむき出しになるからです。その上、切り口の面積が大きくなると、ハクサイそのものの呼吸量や水分の減少も著しくなり、鮮度が落ちやすい野菜になるのです。

それで、カットしたハクサイの鮮度を保つには、もはや新聞紙だけではとても難しくなり、ポリエチレンフィルム等で包装し、5℃以下の低い温度で保存することが必要になるのです。

寒い冬は鍋物などで、「新鮮なハクサイ」をたくさん食べると幸せな気分になります。是非ご賞味ください。



兵庫県では淡路から但馬まで多様な気候風土の中、「ハクサイ」や「キャベツ」など地域特産農産物が作られています。それらは色、形も多様で食べる人の目を楽しませてくれます。また、緑（葉緑素）、橙（βカロチン）、赤（リコピン）、紫（アントシアニン）などそれぞれの色素が目を楽しませるだけでなく、身体の健康を維持する種々の機能成分であることも明らかになってきました。

私は兵庫県立農林水産技術総合センターで長年、野菜や果物の味や栄養価さらには鮮度保持の技術を研究してきた「トマト博士」です。これから紹介する県内の特産農産物のすばらしさを感じていただければ、また、1つでも「へー」と思われることがあればうれしいです。

（兵庫県植物防疫協会 技術顧問）

【編集後記】

令和2年度№3をお届けします。

さて、今年の流行語大賞に三密が選ばれましたが、コロナ関連が流行語になるとは、悲しいものがある反面、如実に世相を表しています。年間を通じて、様々な行事や行動が中止 or 自粛さらには人的交流にも大幅に行動制限がかかり、まさしく失われた1年です。

そんな中でも、流行と言えばステイホームを楽しませた半沢直樹の倍返しブームや鬼滅の刃旋風が起きました。

来年はコロナウイルス退治に向けて、全集中・水の呼吸・壺の型でお・し・ま・い・DEATH！

本年も兵庫県植物防疫協会の事業運営にご高配いただきましたこと厚くお礼申し上げます。来たるべき新年が皆様にとってより良い年となるように祈念いたします。

(M)

兵庫県植物防疫協会 今後の予定

令和3年

- 1月26日 令和2年度農薬安全使用技術講習会（姫路市）
- 2月1日 令和3年度新農薬展示ほ設置申込書提出締切り
- 2月4日 令和2年度農薬安全使用技術講習会（三木市）
- 2月10日 令和2年度農薬安全使用技術講習会（神戸市）
- 3月10日 植物防疫推進表彰 表彰式
- 3月10日 新農薬等展示ほ成績検討会

発行元

兵庫県植物防疫協会

神戸市中央区下山手通 4-15-3

TEL:078-332-7144、FAX :078-332-7152

Mail:hyogo-syokubo@mountain.ocn.ne.jp



新農薬展示ほ調査成績中間検討会